

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100145		
法人名	医療法人 城南会		
事業所名	グループホーム さつき荘		
所在地	沖縄県 那覇市 宇栄原3丁目5番14号 3階		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100145-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさつき荘は、入居者を介護するにあたって、「やさしく」、「明るく」、「笑顔」で接することを大切にしている。「目配り」、「気配り」、「心配り」を常に心がけ、入居者の生活を支援しています。入居者の「気持ち」を大切に、生きがいのある明るい生活を送ってもらいながら、認知症の進行を緩やかにし、心身機能の維持・改善を図っている。入居者に身体面・精神面の変化が見られた場合、近隣にある同法人診療所の医師(主治医)、看護師や隣接のデイサービスの看護師等に相談しながら対応し、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はマンションの3階にあった高齢者住宅部分を改修した造りとなっていて、それぞれの居室にはクローゼットがあり入居者の持ち込んだ衣類やタオル等が整理されている。2階には同法人のデイサービスセンターがあり、入居者はデイサービスの活動(書道・陶芸・生け花)等に参加することができ、デイサービスの利用者とも触れ合うことがある。法人の医療機関と連携し、入居者の健康管理に努め、入居者や家族に安心感を与えている。職員のスキルアップのため研修等への参加時には勤務を融通したり、研修内容によっては金銭的な援助も得られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年 1月 13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務の中で利用者に対する対応、ケアの方法などに理念に関わる課題点、再検討を要する事案ができた場合、速やかにブリーフィングや勉強会を行っている。	法人の理念の基に5つからなる事業所の理念を作成している。入居者の尊厳の保持に注力し馴れ合いにならず、しかしよそよそしくならないよう言葉づかいに気を付け、朝礼、終礼で理念にあっているか話し合っている。家庭的で笑顔ある環境づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方々との日常的な交流には至っていない。	地域の清掃活動をしていたが、現在は行っていない。自治会にもアプローチはしていないが、現在は民生委員との面会を知人に依頼している。事業所の駐車場脇のベンチに入居者と共に座り、夕涼みをすることがあるが地域との交流はない。	地域密着型サービスの基本方針である「地域住民との交流の下、住み慣れた環境での生活を継続」するためにも、地域との交流を始めることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学にきた方や電話問い合わせの方などとお話する事はあるが、地域の方を対象にした相談会などをもつなどに至っていない。母体法人の診療所地域相談センター等で行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議を開催している。市町村担当者に利用者の状況や施設の活動・運営状況を報告を行い、意見を頂いている。	運営推進会議は定期的開催され、事業所の活動状況の報告をして、市担当者から地域との交流、消防避難訓練について意見をもらっているが、参加者は、行政、入居者家族のみで、入居者本人、地域代表は参加していない。議事録を作成し、事業所カウンターに設置して、家族などが見られるようにしてある。	地域代表や民生委員等に運営推進会議の意義を説明し、参加協力を求めることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者から入居者のための法的手続きの助言・指導をもらって、サービス向上、健全な施設運営のための連携を図っている。	市保護課に生活保護の方に対する相談等をしたり、ケアマネが入居者の介護認定の事や、加算の事など、法的な相談をしている。また、市より研修の案内をFAXでもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常業務の中で入居者に対する対応、ケアの方法等が身体拘束にあたると思われる場合、ブリーフィングや勉強会をするようにしている。	管理者は日頃よりスピーチロックにあたると思われる場合には、その場で注意するようになっている。法人全体で身体拘束しないケアに取り組み、玄関の鍵は日中は開錠され、夜間のみ施錠している。新規入居者にはリスクについて、必要が出てきたときに説明している。	

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを備え、職員に認識、周知を行っており、機会があるごとに話しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度についての勉強会は行っていないが、マニュアルを備え付け、いつでも情報を提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については、時間をかけて説明を行っている。家族や契約者の疑問、不安などをなくし、納得してもらってから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが投稿の実績はない。入居者や家族からの意見、要望等は、管理者、ケアマネに直接、又は職員を通して寄せられており、管理者は速やかに対応している。	入居者からは生まれ育った島へ行きたい等日頃のケアの中で意見を聞いている。家族からは、運営推進会議や来所時に意見を聞き、「トーカーのお祝いをしたい」と事業所で着物を着て、ケーキやお菓子を食べてお祝いをし、家族から入居者へお返しを配っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者への対応、ケアの方法、業務改善などについて、日常業務の中で、職員と意見交換に努めている。	毎月開催されるミーティングの中で、また、毎日の朝礼、終礼の中で職員は意見を言う機会がある。雨天時の洗濯物干しの場所が欲しいという意見にトイレの一角に物干しを設置している。職員の意見で今年の敬老会は家族にも声掛けし外食を楽しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングやその都度、話し合いの機会を持ち改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講に関する情報提供、施設での勉強会を行いながら介護の知識・技術の向上に努めている。法人内研修として、外部講師による研修等も行われている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会議、法人内外の勉強会、研修、見学会にも参加するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から話を聞く機会を持ち、本人の言動等から本人の心理状態や要望なども理解することにも努め、同時に受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等と事業所の役割、家族の役割、連携・協力体制のあり方などについて話し合うなかで、できるだけ家族の不安を取り除き、要望に応え、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内外のサービス事業所との情報交換、連携を心がけ、相談を受けたときには、本人、家族の話しをよく聞いた上で、認知症デイサービス、小規模多機能、訪問介護等の他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の喜怒哀楽の感情が大切なものであると認識しており、入居者を人生の先輩として尊敬し、生活や子育ての知恵、慣習などを学ばせてもらいながら、支えていくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の精神状態や健康状態の変化等に家族と共に一喜一憂し、家族と対等な立場で、連携・協力して本人を支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の写真、入居者が愛用していた小物、身の回り品、備品等の持ち込み等も家族等をお願いしている。デイケア利用や同建物内デイサービスの活動への参加交流等を通して馴染みの通所利用者や職員との交流の機会を設け支援している。	事業所の2階に同法人のデイサービスがあり、以前通っていた入居者には声掛けしてデイサービスの利用者との交流を継続している。また、同法人の医療デイケアにも週2、3回通い、利用者との関係継続を支援している。入居者の出身地域へドライブをしている。	

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの座席配置なども調整して、利用者同士が孤立したり、衝突したりしないように気配りをしている。状況によっては職員が仲介して和やかな雰囲気を作るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、築き上げた関係を継続できるようにしている。入院による退所者も定期的に見舞いに行ったり、死亡による退所者の場合、弔問したり入居中の写真を整理して差し上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の職業歴や生活歴をできるだけ情報収集し、日常の関わり合いを通して本人の現在の希望や意向を把握するようにしており、可能な限り本人の希望や意向にそうように努めている。	日常業務の中で入居者の思いを聞き取るようにしている。入居者の思い出話を聴いたり、家族に入居者の職業歴などを聞き、それを業務日誌に記載して、朝礼・終礼で申し送りをして、職員間の情報を共有している。テレビやDVDで入居者の好きな沖縄芝居やお笑いを流している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や支援者から積極的に情報を得るようにしており、日々の関わりの中からも本人のことを理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックや生活記録、申し送り、職員同士の情報交換から入居者の現状・変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合いをもち、必要な場合は他のサービス事業者の関係者からも情報を得て、介護計画書を作成している。職員で話し合い、意見交換も行い、対策、留意点を記載している。	介護認定更新時に本人、家族、主治医、相談員等の意見を聞き、介護計画を作成している。身体状況に変化のあった時にも計画の見直しをしているが、介護計画書やモニタリング表は整えられておらず、調査当日には確認ができなかった。また、支援経過は作成されていない。	本人、家族の意見を反映し状況に応じた介護計画を作成し、本人、家族の同意を得て交付が必要であり、モニタリング表や介護計画書、支援経過等書類の整備への取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や変化などを個別に記録することで、情報を共有し、日々の支援や介護に役立てて、介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望に応じて、可能な限り柔軟に対応、支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々、看護師に心身状態を報告し、必要時にかかりつけ医を受診できるとう支援している。かかりつけ医での定期受診の際に必要なに応じて健康チェックのデータ等も準備して診断の参考にしてもらっている。	かかりつけ医が同法人の協力医で、週2、3回協力医療機関のデイケアに通い、利用日にはバイタル表を持参している。受診は職員が同行し、状態変化や薬の変更時には家族に報告し、医療機関からは書面や電話等で情報を得ている。訪問歯科も受け入れている。他科受診は家族対応で結果は口頭で受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面、精神面を観察しながら、変化が感じられた場合は、同法人医師、看護師に相談しながら、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の状況を家族、病院の相談員と情報交換を行いながら、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しがみられた場合、次の対応を適切に行えるよう、なるべく早い時期から家族や主治医と話し合いを持つようにしている。	協力医と重度化や看取りの方針について共有し、事業所は、本人や家族の希望があれば看取りを行う方針であるが明文化はされていない。事業所の方針について家族等に説明しているが繰り返しの話し合いには至っていない。職員も方針について確認していて、急変時についての勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、家族、救急への連絡体制をとっている。応急手当や初期対応の訓練などは計画中である。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路図を作成・掲示し、職員に周知するようにしている。設備面では、スプリンクラーと防火扉を設置している。	運営推進会議でも避難訓練の要望があるが避難訓練は1回のみである。消防署の協力のもと夜間想定 of 総合訓練が実施されている。地域の方に声かけしたが協力は得られなかった。備品、備蓄(水)等の準備はされていない。	避難訓練は年2回義務付けられています。入居者と職員が安全に避難できるよう、年2回の訓練と地域の協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者を尊重し、誇りやプライバシーを守りながら、対応を行っている。記録、写真、その他のプライバシーに関わる個人情報の取り扱いは十分に留意している。	一人ひとりを尊重し、特に言葉使いには気をつけるように日頃から管理者は職員に話している。不適切な言葉使いにはその場で注意し、方言は無理に使わず、入居者から教えて頂くようにしている。排泄時にはトイレの外で待つなどプライバシーにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自身の気持ちを表現できるよう働きかけたり、事柄に納得して自己決定できるように支援している。入居者の希望に添えない時にも本人が納得できるまで説明を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活リハビリや娯楽を通して、基本的に入居者が望むこと、楽しめることを一人ひとりのペースを大切にしながら指導・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の以前の生活に合った身だしなみやおしゃれができるように配慮している。理容、美容については家族と本人の意向により選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かしながら、楽しみながら一緒に準備や食事、片付けを行っている。役に立っているという充実感を感じてもらえるよう感謝の言葉をかけることを心掛けている。認知症の進行、歩行機能の低下などで準備、片付けなどが難しくなっている入居者が増えているのも実情である。	24年の6月より、ご飯と味噌汁は事業所で作り、その他は3食レトルトパックで、行事食も可能で食材の種類やレパートリーが増えている。入居者の希望などは間食で取り入れている。入居者はお膳拭きやおやつ作り等に参加している。現在医療食の方はいないが、診療所の栄養士と連携がとれる環境となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックし、入居者一人ひとりの疾病、身体状況をあわせて栄養摂取や水分確保に努め、栄養バランスなどにも配慮している。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを入居者の状況に応じて支援している。口腔内や入れ歯の状態を把握し、必要時には家族に連絡し、歯科受診につなげることもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を把握、活用して、声かけ誘導を行っている。夜間オムツを利用している入居者でも日中はリハビリパンツを使用しトイレでの排泄を促している。失禁などで着衣やシーツを汚してしまった場合も、入居者のプライドを傷つけないよう職員がこっそり後始末をするなどして支援をしている。	夜間オムツ使用は3名、ポータブルは1名で、排泄パターンを把握して、日中はリハビリパンツに替えトイレで排泄できるように取り組み、排泄の状況に応じて清潔にしている。訴えることはできるが声が小さいため、本人が持参した携帯用のベルで知らせる入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の状態を把握し、水分や食事、運動などに配慮している。必要に応じて看護師などに相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回となっているが、本人の状況や希望に合わせて入浴できるように心がけて支援している。入浴拒否や入浴日の錯誤などがある入居者には時間をおいて再度こえかけをしたり、別のスタッフから声かけをするなどして入浴できるように支援している。	入浴はシャワー浴で入居者の状況に合わせて支援している。一人で入浴希望時には時々声かけで見守りに対応している。曜日や時間、職員を変えても嫌がる場合は、清潔面も考慮して家族に相談し家族の協力で入浴する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠をとって頂くためになるべく活動、雑談等を促している。本人からの希望があれば休息を行っている。前日の睡眠状態も考慮しながら休息をとっていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬介助を行い、それに伴う症状の変化に留意している。服薬の変更等は必ず連絡事項として伝え、確実に行われるように努めている。薬の目的や副作用などの理解をするため、連絡事項に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みなどを家族や日々の生活の中で聞き取り、楽しめるように工夫している。家族からの差し入れもある。一人ひとりの能力を活かしながら、洗濯物たたみや食事の片づけなど行ってもらっている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分転換を目的に施設周辺を散歩したり、屋外で過ごす時間も作っている。近くの商店に買い物に同行し、本人の好きなお菓子等を買ってもらったりしている。	入居者全員が揃うのは日曜日と公休日で、敬老会には家族にも声かけし全員が外食を楽しんでいる。入居者全員週2～3回のデイケアに行く他、事業所周辺を散歩したり出身地にドライブ等に出かけている。大型スーパーに衣類や日用品の買い物の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭管理ができる方には本人や家族の希望に応じて所持してもらい支援を行いながら使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の家族への電話は自由に行っている。電話のかけ方を表示したり、ご家族へも電話の回数が多くても対応してもらうようお願いするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や音量に配慮しながら心地よい空間作りを目指している。職員間でも意見交換をし、より良い環境作りを目指している。	共用空間は明るく、テーブルやソファ、テレビ、食器棚が置かれている。フローには季節を感じてもらう為の飾りや入居者の作品、手作りカレンダーが飾られている。テレビに合わせて体操する入居者や表情の変わる人形と楽しむ入居者等、好きな場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に椅子や机、ソファ、テレビなどを配置し、入居者がおもしろいおもしろい過ごせるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用した身の回りの物や家族の写真などを飾り、入居者の状況に応じてテレビやラジオも置いて落ち着いて過ごせるようにしている。	各居室にクローゼットがあり、衣類や日用品等は整理されている。家族写真やタンス、柱時計、寝具等が持ち込まれ、方位を意識する方の居室には東、西、南、北とわかるように部屋の壁に貼ったり、活動で活けた花や作品が飾られている等、それぞれの入居者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部には手すり等を設置し、家具の配置などを工夫し、できる限り安全で自立した生活		